

春

沈丁花のさわやかな香りが漂い
夕まずめの薄明かりの中
買い物袋を提げた人が歩いている

疲れているようにも見えるが
幸福であるようにも見える
まるで幼児のような無意識

自分自身を守る、ということ
その弱さと、共有の可能性
燭台の脆さが灯りを揺らすとき

連続した緊張がもたらした
か細く、そして変質した弛緩
ただ廃棄されるだけの

疎らな雲から垂らされた糸は
人々に達する前に消えている
あたかも菌糸のような浸潤

買い物袋は重力の軛に繋がれている
それを保持している腕は
私の視線をも同時に支えている

絶望そのものが消滅した大気の中を
乾いた孢子が浮遊している
次の予言を孕んだ孢子が・・・

(2014.5.4)